



8. メニューリファレンス

メニューリファレンスでは Napp のメニューで指定したコマンドがどのような機能を持つのかを解説します。

Mac OS-X ではメニューにショートカットキーが定義されている場合、各項目の右側に表示されています。操作に慣れてきたらば試してみてください。



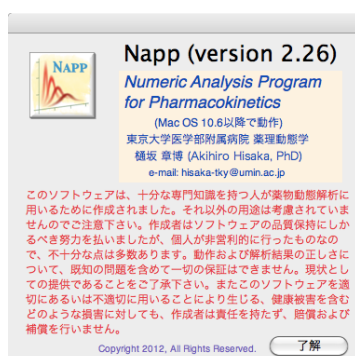
8.1. Napp メニュー

プログラムについての情報を示したり、好みに合わせた基本的な設定を行う機能があります。

Nappについて	
プリファレンス...	⌘D
ツールバーを設定...	⌘B
エキスパート設定...	⌘E
アクセスレベル切替...	⌘A
管理...	
サービス ▶	
Nappを隠す	⌘H
ほかを隠す	⌘H
すべてを表示	
Nappを終了	⌘Q

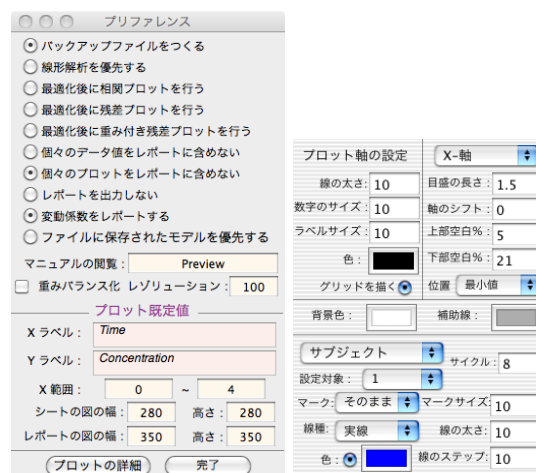
8.1.1. Napp について

案内パネルを表示します。アプリケーションのバージョンや制作者の情報が参照できます。



8.1.2. プリファレンス...

ユーザの使用目的に合わせた設定を行うプリファレンスパネルを表示します。



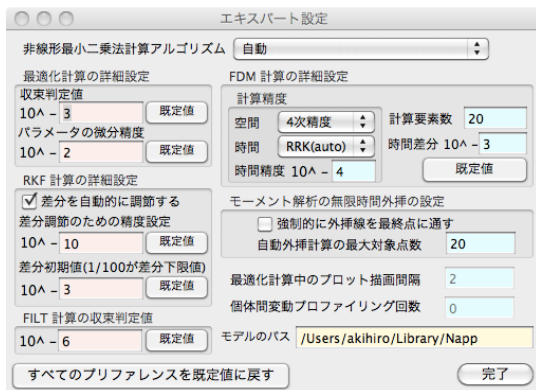
8.1.3. ツールバーを設定...

ツールバー設定パネルを示し、ツールバーのカスタマイズを可能にします。なお、ツールバーの表示、非表示の切り替えはウィンドウの右上のボタンから行います。また、このボタンをアップルキーを押しながらクリックすることにより、ツールバーの表示方法を変えることができます。



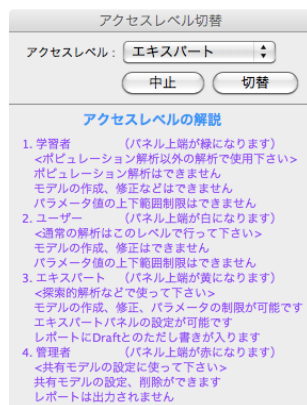
8.1.4. エキスパート設定...

Napp の数値解析にかかわる詳細の設定を行います。この設定を変える場合は十分注意して下さい。この設定はアクセスレベルがエキスパートか管理者の場合に可能になります。設定の詳細はカーソルをパネルの設定項目にあわせるとチップスが表示されますので参照下さい。



8.1.5. アクセスレベル切替…

Napp の使い方に応じてアクセスレベルの切替えを行います。それぞれのレベルについてはパネルの説明を参照下さい。



レベルを切替えるにはポップアップボタンから選択してパスワードを入力し、「切替」のボタンを押します。もしパスワードを設定していない場合は、設定するように入力を求められます。確認のために2度入力し、さらにパスワードを思い出すためのヒントを設定することができます。ヒントはパスワードを誤って入力した場合に示されます。

もし望むアクセスレベルが表示されない場合は、管理者に設定を依頼する必要があります。管理者は普通Nappをインストールした人であり、使っているコンピュータの管理者権限も持っている必要があります。

一旦パスワードを入力してから「パスワードを変更」のボタンを押すと、パスワードを設定し直すこと

ができます。なお、どうしてもパスワードが思い出せない場合は、管理者にパスワードを無効にしてもらうことができます。

8.1.6. 管理…

この機能には現在のバージョンではアクセスできません。

8.1.7. サービス

選択部位を Napp 以外の他のプログラムで処理する場合に使います。この部分の機能はお使いのコンピュータの設定によって変わります。

8.1.8. Napp を隠す

Napp に関するするウィンドウを一時的に隠します。再び表示するにはドックの Napp のアイコンをクリックします。

8.1.9. ほかを隠す

Napp 以外の実行中のアプリケーションのウィンドウを一時的に隠します。

8.1.10. すべてを表示…

実行中のアプリケーションのウィンドウを全て表示します。

8.1.11. Napp を終了

Napp を終了します。編集中的数据がある場合は、保存するかどうかの問い合わせのパネルが現れます。

8.2. ファイルメニュー

Napp のデータのファイルへの入出力を管理します。



新規	⇧ ⌘ N
開く...	⇧ ⌘ O
最近使った項目を開く	▶
複製	
保存	⇧ ⌘ S
別名で保存...	⇧ ⌘ S
すべてのファイルを保存	
データをまとめて変換	▶
データをエクスポート...	
ファイル名を指定して最適化	
メモを記録...	⇧ ⌘ M
レイアウト...	
プリント...	⇧ ⌘ P

8.2.1. 新規

空白のファイルを新たに1つ開きます。

8.2.2. 開く...

既存のファイルからデータを読み込みます。データの量が多いと、読み込みにかなりの時間を要することがあります。

8.2.3. 最近使った項目を開く

最近保存したファイルを選択してデータを読み込みます。

8.2.4. 複製

現在手前に表示されているファイルと同一の内容のファイルを新たに作ります。

8.2.5. 保存...

現在手前に表示されているファイルの情報を保存します。ファイル名が指定されていない場合にはファイル名の入力を求められます。

8.2.6. 別名で保存...

現在手前に表示されているファイルの情報を新たなファイル名で保存します。

8.2.7. すべてのファイルを保存...

現在オープンされているファイルを全て保存します。

8.2.8. ファイル名を指定して最適化

指定したファイルを開き、最適化、保存を行います。複数のファイルを指定できますので、大量のファイルの計算に使えます。実行する場合はディスクの空き容量に注意して下さい。システムの仮想メモリに使われる分も考慮すると、数GB用意した方が安全です。

8.2.9. レイアウト...

レポート印刷時のレイアウトを設定できます。

8.2.10. プリント...

現在選択されているレポートの内容を印刷します。ページやプリンタの詳細設定が可能です。出力先を選択することにより、PDF ファイルを作成することができます。プレビューを選択することもできます。

8.3. シートメニュー

Napp のシートの新規作成、タイトル入力などを行います。

非線形解析シートを新規に挿入	⇧ ⌘ N
線形解析シートを新規に挿入	⇧ ⌘ L
現シートの複製を挿入	⇧ ⌘ D
現シートを削除	⇧ ⌘ ⌫
現シートをサブジェクトごとに分離 有効なシートを1枚に統合	
別ファイルに分離 すべてのファイルを1つに統合	▶
現シートを移動	▶
シートを選択	▶
シートの有効無効を切替	▶
プロットの設定	▶
シートのタイトルを入力...	⇧ ⌘ T

8.3.1. 線形解析シートを新規に挿入

現在手前に表示されているシートの次に新規に空の線形解析用のシートを1つ挿入します。

8.3.2. 非線形解析シートを新規に挿入

現在手前に表示されているシートの次に新規に空の非線形解析用のシートを1つ挿入します。



8.3.3. 現シートの複製を挿入

現在手前に表示されているシートと同じ内容のシートを1つ挿入します。

8.3.4. 現シートを削除

現在手前に表示されているシートを削除します。取り消しはできませんのでご注意ください。

8.3.5. 現シートを別ファイルとして分離

新しいウィンドウをオープンし、そこに現在手前に表示されているシートを移動します。現在のファイルにそのシートは残りません。

8.3.6. 現シートの複製を別ファイルとして分離

新しいウィンドウをオープンし、そこに現在手前に表示されているシートの複製を移動します。現在のファイルにも当該シートが残ります。

8.3.7. 現シートとその右側を別ファイルとして分離

新しいウィンドウをオープンし、そこに現在手前に表示されているシートを含め、これより後ろ(右側)のシートをまとめて移動します。

8.3.8. すべてのシートを別々のファイルに分離

現在、手前に表示されるファイルに含まれるシートを、それぞれ別のウィンドウに分離します。全て独立したファイルとして取り扱われることとなります。ファイルとして独立すると、同時に表示が可能となりますが、まとめて解析することはできなくなります。

8.3.9. すべてのファイルを1つのファイルに統合

現在編集集中のすべてのファイルを1つに統合します。前項の機能の逆ですが、現在のところ、この機能

にはバグがあり、統合後のタイトルの表示がおかしくなります。従って使用を勧めません。

8.3.10. サブジェクトごとにシートを分離

現在のシートに複数のサブジェクトのデータが入力されている場合に、これを分離してそれぞれ別のシートに割り当てます。シートのタイトルはサブジェクト番号となります。

8.3.11. 現ファイルのすべてのシートを1枚に統合

現在のファイルのデータを一枚のシートにまとめます。前項の機能の逆です。それぞれのシートのモデルが同一でなければなりません。

8.3.12. 現シートを左端に移動

8.3.13. 現シートを1つ左に移動

8.3.14. 現シートを1つ右に移動

8.3.15. 現シートを右端に移動

現在表示されているシートをそれぞれの場所に移動し、順番を整えるのに使います。

8.3.16. 現シートの有効無効を切り替える

8.3.17. 現シートとその左側を有効にする

8.3.18. 現シートとその左側を無効にする

8.3.19. 現シートとその右側を有効にする

8.3.20. 現シートとその右側を無効にする

指定したシートをまとめて有効、あるいは無効にします。無効になると重ね書きから除かれるほか、まとめて最適化計算する場合も対象から除かれます。無効なシートの名前は頭に「*」が付いて示されます。

8.3.21. シートのタイトルを入力...

シートのタイトルを設定します。入力されたタイトルはレポートに出力されます。



8.3.22. 指定ページのシートに移動

ページを指定して、指定したページに移動します。

8.4. 編集メニュー

編集メニューではカットアンドペーストの設定などを行います。このメニューの機能はいずれも OS-X 標準のものです。

取り消し やり直し	⌘Z ⇧⌘Z
カット コピー ペースト 削除 すべてを選択	⌘X ⌘C ⌘V ⌘A
フォント カラーパネル...	▶ ⇧⌘C
検索	▶
読み上げを開始 読み上げを停止	⌘R ⇧⌘R

8.4.1. 取り消し

直前に行われたデータリストに対する編集操作を取り消します。このメニューの項目名は行われた操作の種類によって変わります。

8.4.2. やり直し

直前に取り消されたデータリストに対する編集操作をやり直します。このメニューの項目名は取り消された操作の種類によって変わります。

8.4.3. コピー

選択部分を複製するために選択します。

8.4.4. カット

選択部分を切り取り、複製に備えます。

8.4.5. ペースト

コピーされた部分をペースト(張り付け)します。

8.4.6. 削除

選択部分を削除します。

8.4.7. すべてを選択

対象全体を選択します。テキストの全選択に便利です。

8.4.8. フォント

フォント設定のサブメニューを示します。レポートで編集可能な部分はフォントおよび色の設定が可能です。

8.4.9. カラーパネル...

カラーパネルを示し、カラーの設定を行います。

8.4.10. 読み上げを開始

選択部分のテキストの読み上げを開始します。読み上げについては画面左上隅のアップルメニューの「システム環境設定...」の「スピーチ」で詳細を設定して下さい。現在は英語での読み上げのみに対応しています。また、数字と数字の間を切って読み上げるには、カンマなどを挟むようにして下さい。

8.4.11. 読み上げを停止

実行中のテキストの読み上げを停止します。

8.5. 操作メニュー

Napp で基本となるプロット、最適化計算などの操作を行います。このメニューの主なものはツールバーからも実行が可能です。

プロット	⇧⌘P
データ中の個々のパラメータでプロット	
プロットをクリア	⇧⌘X
プロットの表示情報のみをクリア	
レポートを作成	
最適化計算	⇧⌘F
パラメータを最適化前の初期値に戻す	⇧⌘I
サブジェクト個別のパラメータを使う	
同じ名前のパラメータを統一する	⇧⌘U
モデルとパラメータを現シートに合わせる	

8.5.1. プロット

シートが対象となっている場合は、そのシートのモデルに従ってグラフをプロットし、そのモーメント



解析結果をシート上に出力します。モデルが Zline の場合には折れ線グラフを作図します。

線形回帰ウィンドウの場合には、線形回帰計算を行ってその結果を出力します。

8.5.2. データ中の個々のパラメータでプロット

非線形解析シートで、サブジェクトごとに可変パラメータがデータ中に指定されている場合に、指定されたパラメータを使って計算し、プロットします。この機能はポピュレーションモデルに従いデータ生成後に、生成したパラメータセットによる個々のプロットを確認する目的で使います。

8.5.3. プロットをクリア

対象となるシートのプロットを消去します。プロットの消去は、ベイズ推定の直後等、個別別にパラメータが登録されている場合（この場合は個々のパラメータはデータ中にはありません）、これをクリアします。Version 2.01 までは、コンパートメントやサブジェクトの表示が限定されている場合は、このクリアの機能は表示されている情報に対してのみ働きましたが、現在のバージョンでは、表示されていない情報を含めて、全てクリアされます。表示されている情報のみをクリアするには、次の「プロットの表示情報のみをクリア」を使ってください。

8.5.4. プロットの表示情報のみをクリア

前項の説明を参照ください。

8.5.5. レポートを作成

対象となるシートの解析結果をレポートパネルに出力します。なお、非線形最小二乗法最適化については、計算終了と同時に自動的にレポートが出力されます。最適化計算後のレポートとそれ以外のレポートは内容が違います。後者はモーメント解析の内容を中心としたものです。

8.5.6. 最適化計算

非線形最小二乗法によるパラメータ最適化を実施します（線形回帰ウィンドウがメインとなっている場合には、線形最小二乗法が実施されます）。現在のパラメータの値は初期値に登録され、パラメータは最適化計算によって変化します。解析が失敗するケースもあるので、この操作を実行する前に、データをファイルにいったん保存することを勧めます。実施する前に、重み、アルゴリズム、パラメータの初期値、制限および固定(fix)、などの設定が正しいかを確認して下さい。

ツールバーの「解析の対象」および「最適化の方法」の設定に注意して下さい。

8.5.7. パラメータを最適化前の初期値に戻す

最適化計算により修正されたパラメータの値を初期値に戻します。前回の初期値はシートのパラメータ表示の切り替えで確認できます。

8.5.8. サブジェクト個別のパラメータを使う

ツールバーの「解析の対象」をサブジェクト個々として最適化計算を行うと、サブジェクト個々のパラメータを計算することができます。しかし、この値はそのままと参照するだけで、編集したり次の解析に用いることができません。このコマンドを実行すると、現在表示中のパラメータの値をサブジェクト個々ではなく共通の値に設定し、これを使用可能とします。

8.5.9. 同じ名前のパラメータを統一する

ツールバーの「解析の対象」をすべてのシートあるいは同時最適化にした場合、現在スクリーンで確認できないシートが解析対象となることもあります。特に同時最適化の場合には、これらのすべてのシートで同じ名前のパラメータは同一の値が設定されている必要があります。このコマンドはこのために同じ名前のパ



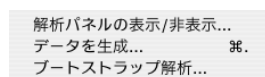
ラメータの値と設定を統一します。

8.5.10. モデルとパラメータを現シートにあわせる

現在のファイルの全シートのモデルとパラメータの値を現在のシートのものと同一にします。

8.6. ツールメニュー

ツールメニューには、Napp の機能を補助あるいは拡張する機能が集まっています。



8.6.1. 解析パネルの表示/非表示...

現在のファイルの解析パネルの表示、非表示を切り替えます。この機能はファイルのウィンドウの下部のボタンでも実行できます。

8.6.2. データを生成...

現在のモデルに従って正規誤差を加えたデータを合成するためのパネルを示します。4.12 を参照して下さい。

8.6.3. ブートストラップ解析...

現在のシートのデータに従ってランダムサンプリングによりブートストラップ用のデータを合成します。

8.7. プロパティメニュー

プロパティメニューには、シートのプロパティを様々な形式で出力するための機能があります。プロパティにはデータリストから入力されたサブジェクトごとの変数（共変量）、解析により得られたパラメータの値や目的関数の値や AIC 値、モーメントの値、シート番号(ページ)、サブジェクト番号などが含まれます。データリストから入力された変数には語頭に@

が付いて示されます。また分散、標準偏差はそれぞれ \$, \$\$が語頭に付きます。



シートを対象とすると、現在のシートの現在のスタックだけがプロパティの検索対象となります。プロパティはサブジェクト別に検索され、シートのサブジェクト欄で限定されている場合は有効なサブジェクトについて出力されます。プロパティの選択時に「欠落は標準値を使う」をチェックすると、データリストから入力された変数がパラメータと同一で、かつそのパラメータが固定(fix)されている場合には、データリストに入力のないサブジェクトの該当するプロパティの値はパラメータ欄の入力値となります。

ファイルを対象とすると、現在のファイルの有効な非線形解析シートが検索対象となります。サブジェクト別のプロパティは無視されます。

8.7.1. 個々の値をレポート...

プロパティの個々の値をレポートに出力します。

8.7.2. 平均と標準偏差をレポート...

プロパティの平均と標準偏差、CV を計算し、その結果をレポートに出力します。

8.7.3. 相互の相関をレポート...

複数のプロパティを選択し、それぞれの間の相関を総当たりで解析し、その結果をレポートに出力します。また各プロパティの平均と標準偏差も出力します。

8.7.4. 1組の相関をプロット...

プロパティを2個選択し、新たに線形解析シート



を作成してその間の相関を示します。

8.8. ウィンドウメニュー

ウィンドウの表示を制御するメニューです。

ウィンドウを閉じる	⌘W
ウィンドウを拡大	
ウィンドウを最小化	⌘M
レポートウィンドウを示す	⇧⌘R
すべてを手前に移動	
<hr/>	
✓ temp	
● 名称未設定	

このメニューの機能は明らかなので説明は省略します。なお、新たにファイルを開くと、ここにそのウィンドウを手前に示すアイテムが追加されますので、ウィンドウが行方不明になった場合は、このメニューから探すのがよいでしょう。